

ナウマンゾウ模式地での再発掘調査(地学散歩(67))

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2018-05-11 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 池谷, 仙之 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00025047

ナウマンゾウ模式地での再発掘調査

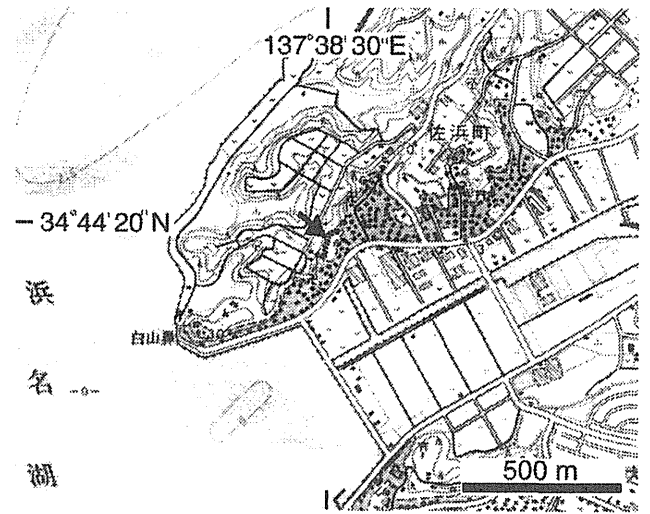
池谷 仙之*

地学散歩 (67)

ナウマンゾウ *Palaeoloxodon naumanni* (Makiyama, 1924) の模式地は静岡県浜松市佐浜町 (浜名湖東岸北緯 $34^{\circ} 44' 20''$, 東経 $137^{\circ} 38' 30''$) にある (図参照)。模式地付近は三方原台地下に第四紀中期更新世に堆積した海成の「浜松層の佐浜泥部層」が分布し、この佐浜泥部層の上部層より、これまでに十数頭分のナウマンゾウの骨格化石が産出している。模式地およびこれに隣接する地域は大正時代からの埋立用土砂の採取などで、多くの崖は削り取られ、現在、発掘可能な崖はほとんど消失してしまった。

今回の再発掘調査は、剥離可能な2カ所の崖 (東地区と西地区) で、模式標本の未発掘骨と新しい標本の発見を期待して行われた。発掘作業は2002年12月22日から26日にかけて、静岡大学教育研究基盤校費 (大学活性化支援経費) に参加者からの参加費と寄付金により行われた。発掘調査は全国から集まった関係分野の研究者 (49名) によって進められたが、実際の発掘作業は県地学会の主催で小・中・高生、一般市民、学生たち (延べ人数561人) の協働によって行われた。主として人力による注意深い発掘作業によって、ついに、写真に示したナウマンゾウの新標本が発見された。

今回の調査によって、西地区の貝殻混じりの礫質砂層からは、ナウマンゾウの左第4中手骨 (写真4)、左第3中足骨 (写真5)、肋骨片およびシカ類の右角 (写真6) と海水魚エイ類の尾棘が発見された。これらの化石はほとんど同じ層準から発掘された。これらの脊椎動物化石の他に、多量の貝化石 (ウミニナ、カガミガイ、ヤマトシジミなど) が産出した。東地区 (模式地) は灰色のシルト質砂層からなり、ここからはシカ類の指骨 (基節骨) が発見されただけで、ナウマンゾウの未発掘骨は発掘できなかった。この露頭では、貝殻の石灰分が溶かされ、オキシジミなどの印象化石が見られたにすぎない。地層中には材や植物片が多く含まれ、特に、炭化した木の実 (オニグルミ、ハンノキ、エゴノキなど) が多数採取された。本号には、「ナウマンゾウ小特集」として、今回発掘された化石とこれらを産出した地層について、これまでに明らかにされた成果の一部 (7編) を掲載する。



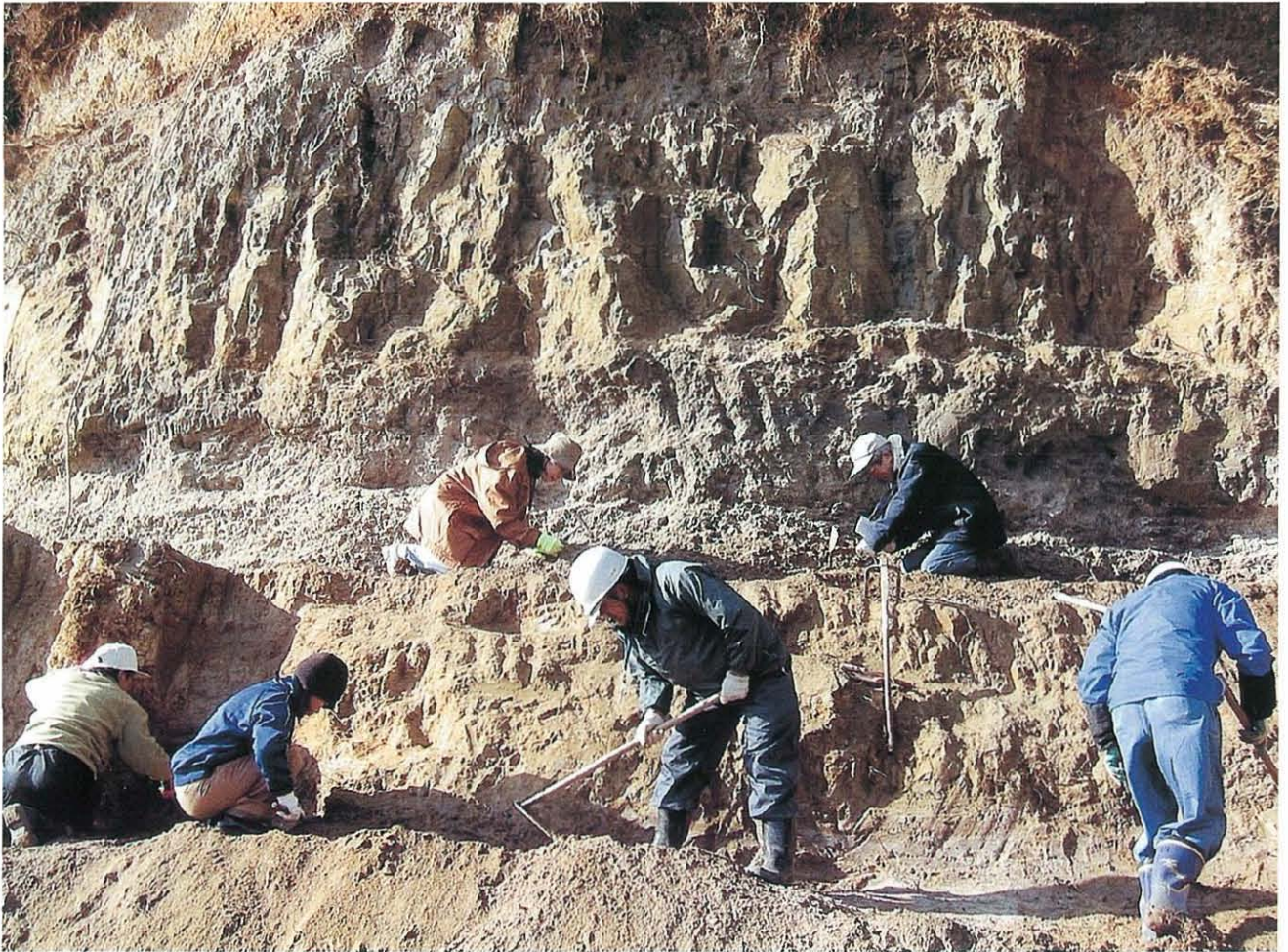
*静岡大学理学部生物地球環境科学科



1. 西地区の露頭（山口惣一郎氏宅裏の崖）.



2. 東地区の露頭（模式地）（柴田ひろ子氏宅裏の崖）.



3. 発掘作業風景（西地区）.



4. 貝殻混じりの砂礫層中より発見されたナウマンゾウの左第4中手骨（西地区）.

5. 砂礫質貝殻（主としてカマガイ）密集層中より発見されたナウマンゾウの左第3中足骨（西地区）.



6. 貝殻混じりの礫質砂層中より発見されたシカ類の右角（西地区）.